

事例 No. 揖屋 2

経営体状況

- ◆ 地区名/揖屋
- ◆ 経営体区分/個人(家族経営)
- ◆ 経営主年齢/40歳代
- ◆ 営農類型/施設野菜+露地野菜
- ◆ 作物/トマト、ハウレンソウ、ニンジン、その他の野菜

・作目別作付け面積(a)

ニンジン……………	30	ハウレンソウ……………	10
トマト……………	19	サヤエンドウ……………	2

・所有施設・機械一覧 施設・機械名・規格 数量

トラクタ 30,20,19.5ps ……………	3台		
パイプハウス……………	9棟	軽トラック……………	1台
運搬車……………	3台		



経営地を上空から撮影

経営の概要

以前、行っていた水稻をやめ、中海干拓農地での畑作経営のみとしている。

施設は、ハウス9棟によるトマト、ハウレンソウ、サヤエンドウを中心とし、露地はニンジンを中心とした栽培を行っている。

労働力は、経営主のほか家族労働力で対応している。

トマトは半促成+抑制栽培を組み合わせている。

販売先は全て直売所(市内スーパー、JA等)である。

経営の成果

トマトは島根県エコロジー農産物の認証を受け付加価値を付けている。

トマトの安定栽培のため土壌や、植物の成分分析を行い施肥設計とアドバイスを受けて実施している。

農産物は、全て市内の直売所(市内スーパー、JA等)としており、市場価格に左右されない経営としている。

トマトの半促成+抑制栽培を行うことにより、生産効率を上げている。

数年前より水稻栽培をやめ、干拓地での野菜栽培に専念することで、経営の効率化が図られ全体的に所得が向上している。

今後の取り組み

トマトは半促成と抑制栽培が中心であるが、その他の作型の分散を進め労働時間の平準化と長期出荷を目指す。

また、ハウスの空き期間に新規作目を導入し、より一層の所得向上を図る。



ハウレンソウの作付状況



トマトの作付状況